

日本語の「しておく」について

——韓国語の「hae nohda/duda」との対照の観点から——

許 宰 碩

キーワード：しておく、hae nohda、hae duda、複合動詞化、意図性、人称制限、文法化

要 旨

日本語の「しておく」と韓国語の「hae nohda」「hae duda」は準備を表すという点において、対応関係を成しているといえるが、詳細は異なる性質も有しており、その相違点を捉えるのは簡単でないようである。また、韓国語の「hae nohda」と「hae duda」の間にも相違が見られるが、これは本動詞の意味の違いから生じるものと考えられる。本稿では、補助動詞の「hae nohda」が複合動詞化して単一動詞として用いられる現象があり、そのため日本語の単一動詞に「hae nohda」が対応しやすい場合があると指摘する。また、「hae nohda」が非意図的な場面で用いられることが確認できる。さらに、「しておく」には人称制限があり、1人称主語に限られる現象が見られるが、「hae nohda」「hae duda」には人称制限が見られないことも指摘する。このような人称制限は、韓国語の「hae nohda」「hae duda」が日本語で訳される時、「しておく」ではなく、基本形や「してくれる」「してしまう」などに訳されることを可能にしていると考ええる。

1. はじめに

現代日本語の「しておく」と韓国語の「hae nohda*¹(해 놓다)」「hae duda(해 두다)」は準備の意味を表す点において共通している。

(1) a. 部屋の掃除をしておく。

b. 방 청소를 해 {놓다/두다}.

(bang cheongssoleul hae {nohda/duda}.)

*1 本稿の韓国語は文化観光部のローマ字表記法に則る。

しかし、「しておく」は(2)のような文においては許容度が落ちるのに対し、韓国語の「hae nohda」「hae duda」には許容度の低下は見られない。

- (2) (学校から帰ってくると、部屋がきれいに掃除してあるのを見つけた。たぶんお客さんが来るから、お母さんが掃除したと考えて)
- a.?お母さんが部屋を掃除しておいたんだ。
b.엄마가 방을 청소해 {놓았구나/두었구나}.
(eommaga bangcul cheongsoshae {nohassguna/duessguna}.)

また、韓国語の「hae nohda」「hae duda」にも許容度の相違が見られ、(3)では、「hae nohda」が用いられ、(4)には「hae duda」が用いられる。

- (3)a. アメリカ軍は重傷を負ったイラク軍の兵士を手術で生かしておいた。
b.미군은 중상을 입은 이라크 병사를 수술로 살려 {놓았다/??두었다}.
(miguneun jungsangeul ibeun Iraq byeongsaleul susullo sallyeo {nohassda/??dueossda}.)
- (4)a. アメリカ軍は捕まえたイラク軍の兵士を殺さずに生かしておいた。
b.미군은 사로잡은 이라크 병사를 죽이지 않고 살려 {??놓았다/두었다}.
(miguneun salojabeun Iraq byeongsaleul jugiji anho sallyeo {??nohassda/duessda}.)
((3b) (4b) は金聲和 2002 からの引用)

このように似たような形式であっても両言語の間には共通点と相違点が見られるため、一概に「しておく」と「hae nohda」「hae duda」が対応しているとは思えない。

本稿では、同じく準備を表すといわれる「しておく」と「hae nohda」「hae duda」との比較対照を過去形を中心に言い、その相違点を明らかにしていきたい。

2. 先行研究

高橋 1969 が「しておく」の基本的な意味をアスペク的な意味ともくろみ性の二つを認めているのに対し、吉川 1973 はアスペク的な意味を基本的な意味とし、もくろみ性はその派生的な意味にすぎないとしている。吉川は「しておく」の意味を次のように分類し、[1]～[4]をアスペク的、[5][6]をムード的なものとしている。

- [1]対象の位置を変化させ、その結果の状態を持続させることをあらわす。
- [2]対象を変化させ、その結果の状態を持続させることをあらわす。
- [3]ある時までに対象に変化をあたえることをあらわす。
- [4]放任をあらわす。
- [5]準備のためにする動作をあらわす。
- [6]一時的処置をあらわす*²。
- [7]いくつかの特例*³。

それに対し、笠松 1993 は、「しておく」の基本的な意味は、もくろみ性であり、動作が完了してもその効力が持続しているという〈動作のパーフェクト〉の意味(アスペク的な意味)がつきまとっていると指摘している。本稿では、アスペク性ともくろみ性のなかでどちらが基本的な意味なのかについて深く踏み込まないが、たとえば、放任であってもやはり話者の意図性が捉えられるのではないかと考えたい。谷口 2000 は「しておく」の本来の機能を「処置的動作」と捉え、文脈上、それがあることの前段に置かれた場合には事前処置(準備性)としての、そのことの後段に置かれた場合には事後処置(終結性)としての機能が働くとしており、終結性の「しておく」の意味を捉えている点が注目される。谷口によれば、後のことが前提とされず、眼前の事柄の完了という点に話し手の注意が向けられると、「しておく」は準備性を消失し、終結性を帯びやすくなるとしている。

一方、韓国語の「hae nohda」「hae duda」は吉川の[1]～[6]の[しておく]、あるいは谷口の「準備性」の[しておく]に通常対応することができると思われる*⁴。しかし、詳細を見ると、(2)のような相違もある上に、さらに、「しておく」に対応できる「hae

*²「一応、預かっておこう」のような例を指すが、吉川は準備の一種となるとしている。

*³「お安くしておきます」のような例を指すが、吉川は形式的には[2]を意味し、さらに何かの準備のため、又は何か将来のためというニュアンスを含むとしている。

*⁴ 谷口の「終結性」の「しておく」には「hae nohda」「hae duda」と訳せるばあい(①)もあれば、訳せないばあい(②)もあるが、基本的には訳すことができると考えられる。

①(妻との協議離婚を決めた夫が)息子には僕から話しておくよ。

②(郵便局の窓口で)A:これ、速達をお願いします。

B:240円ですね。では、こちらから出しておきますから。

nohda」と「hae duda」の間においても(3)(4)のような相違が見られる。

本稿では、「しておく」と「hae nohda」「hae duda」との対応関係を検討し、両言語の違いは日本語のほうが動作主の人称に敏感であることや、文法化の度合いの差からも影響されていることを確認したい。

3. 韓国語の「nohda」「duda」の意味

3.1. 本動詞の意味

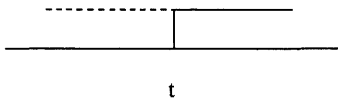
日本語の「置く」は本動詞として「物のある場所に位置させる」という「動作による物の位置変化」に注目しており、変化後の状態維持は表しにくいようである。それに比べ、本動詞「置く」が補助動詞「しておく」になると、動作による変化に加え、変化後の状態維持をも表すことができる。このように日本語の「置く」は補助動詞化による意味の拡張が見られる。

一方、日本語の「置く」に対応するといわれる韓国語は「nohda」と「duda」の2種類が存在する。「nohda」は「動作による物の位置変化」に注目しているのに対し、「duda」は変化後の状態維持に注目していると考えられる。日本語の本動詞「置く」は変化後の状態維持を表しにくいことから「duda」には対応することができないのである。[図-1][図-2]を見られたい。

[図-1]

책상 위에 책을 놓다
(机の上に本を置く)

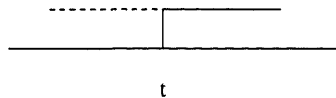
nohda



[図-2]

책상 위에 책을 두다
(??机の上に本を置く)

duda



(∴t:置かれていない状態から置かれている状態への切り替え時点)

韓国語の場合、「置く動作による本の位置変化」に焦点が向けられると、「nohda」が対応し、「本を置いた後の状態維持」に焦点が向けられると、「duda」が対応する。つまり、[図-1][図-2]から分かるように「nohda」は「置かれていない」状態から「置かれている」状態への変化時点(t)を表し、「duda」はその変化時点以後の状態維持

を表している。このような本動詞の意味は補助動詞「hae nohda」「hae duda」にも影響しているようである。(5)(6)を見られたい。

- (5)a. アメリカ軍は重傷を負ったイラク軍の兵士を手術で生かしておいた。(=(3))
 b. 미군은 중상을 입은 이라크 병사를 수술로 살려 {놓았다/??두었다}.
 (miguneun jungsang-eul ibeun iraq byeongsaleul susullo sallyeo {nohassda/??dueossda}.)
- (6)a. アメリカ軍は捕まえたイラク軍の兵士を殺さずに生かしておいた。(=(4))
 b. 미군은 사로잡은 이라크 병사를 죽이지 않고 살려 {??놓았다/두었다}.
 (miguneun salojabeun iraq byeongsaleul jugiji anhgo sallyeo {??nohassda/dueossda}.)

日本語の「置く」は変化時点(t)以後の状態維持を表せないことから「duda」には対応することができない。しかし、補助動詞「しておく」は変化時点(t)だけでなく、変化時点以後の状態維持をも表せる。(5)は「死にかけている兵士を手術で生きられるようにした」という意味であり、「手術で命を取り戻した」動作に注目しているが、(6)は「捕まえた兵士を生きたままにする」という意味であり、「生きた状態を維持させる」という状態維持に注目している。補助動詞「しておく」は(6)のような状態維持にだけ注目することもできるのである。これに対応する韓国語は(5)のような動作に注目している文脈においては「hae nohda」が用いられ、(6)のような状態維持に注目している文脈においては「hae duda」が用いられやすいのである*5。先行研究でもこのような点に注目しているが、それを簡単にまとめると次のようになる。

「hae nohda」：「hae duda」

油谷 1979 対象の変化：対象の結果持続

*5 これは次の例からも分かる。

a. 机の上に本を置いておく。

b. chaegsang wie chaeg-eul [noha duda/??dueo nohda].

日本語の「置いておく」のばあい、本動詞「置く」と補助動詞「おく」の間には行為に注目するか結果維持に注目するかという焦点は異なっているものの、同じ「おく」という動詞が用いられる。一方、韓国語は「置く」行為には「nohda」、結果維持には「duda」が用いられるため、「noha duda」は自然であるが、「dueo nohda」は不自然になってしまう。

李기동 1979 状態変化 : 状態維持
 金聲和 2002*6 留置性終結 : 保存性終結

しかし、「hae nohda」と「hae duda」が必ずしもこのようにはっきり分かれるとは限らない。(7)を見られたい。

(7)a. 彼は金沢に別荘を買っておいた。

b. 그는 카나자와에 별장을 사 {놓았다/두었다}.

(geuneun kanajawae byeoljangeul sa {nohassda/duessda}).

(7)は、「別荘を買う動作」に注目するか、「買った後の状態維持」に注目するかの違いは見られるものの、「hae nohda」「hae duda」のいずれも可能である。実際、(5)(6)のように、ある一方が不自然で、ある一方が自然である場合よりも、焦点は異なっても(7)のようにいずれも可能な場合が多いようである。

3.2. 複合動詞の「hae nohda」

韓国語の「nohda」は前接動詞とくっついて一種の複合動詞として用いられ、辞書の見出し語として載っていることもある*7。日本語文を訳すとき、日本語の単一動詞に対し、「hae nohda」形の複合動詞が対応するケースが見られる。(8)～(10)を見られたい。

(8)a. 太郎が新しい機械を{作った/作っておいた}。

b. 타로오가 새로운 기계를 {만들었다/만들어 놓았다}.

(TALOOga saeloun gigyelul {mandeuleosssa/mandeuleo nohassda}).

*6「hae nohda」は動作の終結により、動作が行われていない状態から行われた状態への変化を表す(留置性終結)が、「hae duda」は終結した動作の結果を未来のため保存する(保存性終結)としている。

*7 韓国国立国語研究院の『国語大辞典』の見出し語調査では、「hae nohda」形が「hae duda」形より多かった。「hae duda」形は「nuleoduda(押しておく)」「dueoduda(置いておく)」の2例しかなかった。ただし、「dueoduda」は若干違和感が感じられないわけではない。

- (9) a. 彼は新しい机を部屋に{入れた/入れておいた}。
b. 그는 새 책상을 방에 {?들였다/들어놓았다}.
(geuneun sae chaegsangeul bange {?deulyeossda/deulyeo nohassda}.)
- (10) a. 食卓に食べ物を{並べた/並べておいた}。
b. 식탁에 음식을 { *늘였다/늘어놓았다}.
(sigtage eumsigeul { * neulyeossda/neuleo nohassda}.)

(8)は、単一動詞「作る」に「mandeulda(만들다)」が対応しているが、(9)は、「入れる」に対応する単一動詞「deulida(들이다)」はやや許容量が落ちるようである。さらに、(10)になると、「並べる」に「neuleonohda(늘어놓다)」が対応しており、ほぼ一つの動詞となっている。(9)の「deulida」は現代韓国語の単一動詞として認められるが、(10)の「neulida(늘이다)」は現代韓国語では用いられず、「hae nohda」形で一つの単語となっている*8。(8)から(10)に行くほど、単一動詞より「hae nohda」形のほうが落ち着きがよくなると思われる。つまり、前接動詞とのくっつきの度合いが高くなるといえそうである。これは、「動詞+eo nohda」が補助動詞から複合動詞へ変化していることを物語っていると思われる。このような複合動詞化が起りやすいのは、韓国語の場合、複合動詞と補助動詞との形態が同一であることも影響しているものと考えられる。このような複合動詞化がなぜ「hae duda」より「hae nohda」に起りやすいのかは依然として疑問である。一つ考えられるのは、「hae nohda」のほうが出来事の成立時点を表していることと関係があるということになる。例えば、(10)の「並べる」という動作は「食卓に食べ物が並べられていない」状態から「食卓に食べ物が並べられている」状態への変化に注目しているだけで、変化後の状態維持までは含まれていない。これは「並べる」を含むほとんどの位置変化他動詞において共通するところである。結局、このような動詞の素性に近いのは「hae duda」より「hae nohda」のほうであり、その分複合動詞化が起りやすくなるのであろう。

一方、李美淑 2001 は「내리다(下す)」「올리다(載せる)」のような空間関係動詞は場所「ニ」格と共起できないため、「hae nohda」形にしなければならないとし、韓国語の場合、動詞の語彙的な意味の中に「nohda(置く)」の意味が含まれておらず、方向性のみを有するが、日本語は語彙の中に「置く」の意味が含まれていると指摘して

*8 現代韓国語の「neulida(늘이다)」は、「並べる」の意味ではなく、「伸ばす・延ばす」の意味で用いられている。

いる。しかし、(11)の「載せる」に「올리다」が対応できることから、一概に空間関係動詞が「ニ」格と共起できないとは限らないだろう。

(11)a. 太郎がカバンを棚の上に載せた。

b. 타로오가 가방을 선반 위에 {올렸다/올려놓았다}.

(TALOOga gabangeul seonban wie {ollyeossda/ollyeonhassda}.)

本稿では、日本語の単一動詞に「hae nohda」形が対応しやすいのは、(10)のような「hae nohda」形の複合動詞化によるものではないかと考えたい。このような複合動詞化は他の形式にもいくつか見られる。

(12)a. 太郎が花子に花を渡した。

b. 타로오가 하나코에게 꽃을 {건넸다/건네주었다}.

(TALOOga HANAKOege kkocheul {geonnessda/geonnejueossda}.)

(13)a. 彼は息子に店を譲った。

b. 그는 아들에게 가게를 {*물렸다/물려주었다}.

{geuneun adeulege gageleul {* mullyeossda/mullyeojueossda}.)

(14)a. 太郎が山に登った。

b. 타로오가 산에 {올랐다/올라갔다}.

(TALOOga sane {ollasda/ollagassda}.)

(15)a. 太郎が花子の部屋に入った。

b. 타로오가 하나코 방에 {?들었다/들어갔다}.

(TALOOga hanako bange {?deuleossda/deuleogassda}.)

(16)a. 猫が食卓に近付いた。

b. 고양이가 식탁에 {*다갔다/다가갔다}.

{goyangiga sigtage {* dagassda/dagagassda}.)

この5例から分かるように、韓国語は日本語の単一動詞に「hae juda(シテアゲル)」「hae gada(シテイク)」形が対応できる場合もあるが、(13)(16)のように単一動詞でなく、「hae juda(シテアゲル)」「hae gada(シテイク)」形しか対応できない場合もある。これは「hae nohda」と同様に、前接動詞とのくっつきの度合いの差であり、(12)(14)の「건네주다(渡してあげる)」「올라가다(登っていく)」より(13)の「물려주다(譲ってあげる)」「(16)の「다가가다(近付いていく)」のほうが複合動詞化している

といえそうである。先にも述べたように、このような韓国語の補助動詞から複合動詞への変化は日本語に見られない現象であり、補助動詞と複合動詞の形態が同一であることが一つの要因として挙げられるだろう。

4. 日本語と韓国語の比較対照

4.1. 「hae nohda」の非意図的用法

日本語の「しておく」は動作主の意図、すなわち何らかの目的をもって行為をする場合に用いられるだけで、次のような意図や目的のない文脈においては不自然になってしまう。(17)(18)を見られたい。

(17) (太郎に車を貸してあげたが、次の日、運転するとき、エンジンの故障に気づく。これはたぶん太郎の運転ミスから生じただろうと思いつながら)

a. ??太郎が車を故障させておいた。

b. 타로오가 차를 고장내 {놓았다/??두었다}.

(TALOOga chaleul gojangnae {nohassda/??dueossda}.)

(18) (1歳の弟の次郎が太郎の部屋で遊んでいた。幼稚園から帰ってきた太郎が自分の部屋が散らかされているのに気づく。これは次郎がしでかしたと思いつながら)

a. ??次郎が僕の部屋を散らかしておいた。

b. 지로오가 내 방을 어지럽혀 {놓았다/??두었다}.

(JILOOga nae bangeul eojileobhyeo {nohassda/??dueossda}.)

(17)は太郎がわざと車を故障させたのではない。(18)も1歳の弟の次郎が何らかの目的をもって部屋を散らかしたのではない。このように日本語の「しておく」は動作主の意図性が認められない場合には用いられにくいようである。一方、韓国語は「hae duda」ではなく、「hae nohda」が用いられる。これは、「hae nohda」が行為に焦点を当て、その行為の結果が話し手に被害を与えたという不満や非難などのニュアンスがあるからであろう。(19)(20)を見られたい。

(19) a. ??猫が赤ちゃんのおもちゃを僕の部屋に運んでおいた。

b. 고양이가 아기 장난감을 내 방에 옮겨 {놓았다/??두었다}.

(goyangiga agi jangnangameul nae bange olmgyeo {nohassda/??dueossda}.)

(20) a. ??台風が並木を倒しておいた。

b. 태풍이 가로수를 넘어뜨려 {놓았다/??두었다}.

{taepungi galosuleul neomeotteulyeo {nohassda/??dueosdda}.}

(19)も動作主の「猫」が何らかの目的をもって行為をしたとは考えにくいことから「しておく」は不自然になる。(20)も同様である。一方、韓国語の「hae nohda」は、意図性がなくても「赤ちゃんのおもちゃを運ぶ」という行為に焦点を当てると、自然に用いられるようである。さらに、韓国語の「hae nohda」は(21)(22)のように形容詞にも接続することができる。朴 2005 は、このような「hae nohda」は形容詞の強調表現であると指摘しているが、これもやはり非難や不満などのニュアンスがあるように感じられる。

(21) a. 息子の体が{弱くて/*弱くておいて}心配です。

b. 아이가 워낙 {약해서/약해 놓아서} 걱정입니다.

{aiga wonag {yaghaeseo/yaghae nohaseo} geogjeongibnida.}

(22) a. {暑くて/*暑くておいて}、仕事ができない。

b. 날이 {더워서/더워 놓으니까}, 일을 제대로 할 수 없다.

{nali {deowoseo/deowo noheunikka} ileul jedaelo hal su eobsda.}

((21b)(22b)は朴선옥 2005 からの引用)

一方、(19)は「人」主語に替えると、「hae duda」の許容度が上がると考えられる。(23)のように文中に意図性を表す副詞「わざと」などが付加されたり、主語が1人称主語になったりすると、より意図性が捉えられやすいだろう。「hae nohda」は意図性と関係なく用いられるのに対し、「hae duda」は意図性がないと用いられにくいのである。「しておく」は基本的に「hae duda」と並行的であると思われる。

(23) a. 私が赤ちゃんのおもちゃをわざと太郎の部屋に運んでおいた。

b. 내가 아기 장난감을 일부러 타로오 방에 옮겨 {놓았다/두었다}.

{naega agi jangnangameul ilbuleo TALOO bange olmgyeo {nohassda/dueosdda}.}

4.2. 人称制限

益岡 1992 は、「しておく」構文は、行為の主体が基本的に1人称に限られるとい

う現象が見られる*9としている。(24)(25)を見られたい。

(24) (学校から帰ってくると、部屋がきれいに掃除してあるのを見つけた。たぶんお客さんが来るから、お母さんが掃除したと考えて) (= (2))

a.?お母さんが部屋を掃除しておいたんだ。

b.엄마가 방을 청소해 {놓았구나/두었구나}.

(eommaga bangeul cheongsohae {nohassguna/dueossguna}.)

(25) (受験勉強をしている田中が心配事を言うと)

a.?君は試験勉強を十分しておいたから、心配しないでよ。

b.너는 시험공부를 충분히 해 {놓았으니까/두었으니까}, 걱정하지마.

(neoneun siheomgongbuleul chungbunhi hae {nohasseunikka/dueosseunikka}, geog jeonghajima.)

(24)(25)から分かるように、日本語の「しておく」は人称制限が働いており、許容度が下がるようであるが、韓国語の「hae nohda」「hae duda」にはこのような人称制限は働かない。

一方、3人称主語であっても、「しておく」が許容される場合もある。

(26) (太郎と花子と三人で学会に行くことになっている。花子と二人で話している間、花子から「私たち、どこに泊まるの?」と聞かれて)

a.部屋なら、太郎がもう取っておいたよ。

b.방은 타로오가 미리 잡아 {놓았어/두었어}.

(bangeun TALOOga mili jaba {nohasseo/duosseo}.)

これは、(26)の場合、行動を共にする3人は一種の共同体であるため、他人である太郎の行為を自分の行為として見なすことができるからであると思われる。(26)は表面的には「しておく」の人称制限にかからないように見えるが、実際には1人称に限られるという制約が働いているのではないかと考えられる。このような人称制限

*9 益岡 1992(p.534)では、単一動詞の「手配する」と「おく」には人称制限がないが、「しておく」形になると人称制限が課せられるとしている。

? 鈴木さんは切符を手配しておきました。

は「hae nohda」「hae duda」との大きな違いにもなる。結局、このことは、授受表現のほかに、日本語のほうが韓国語より視点に敏感であるというもう一つの傍証にもなると考えられる。これと似たような現象はいわゆるムードの「タ」にも見られる。

(27) (明日の対戦相手を見たら、弱い選手であることを知って)

- a. よし、(俺が)勝った。
- b. ??明日の試合はお前が勝った。

(27a)のように行為者(あるいは予測者)が1人称であれば、何の問題もなく「タ」形で言い表すことができるが、(27b)のように2人称になると、許容度がかなり落ちるようである。一方、韓国語の過去形「eoss」はこのような人称制限は存在せず、両方とも言い表すことができる。先にも述べたように、「しておく」は3人称であっても行動を共にする人であれば、話者と一種の共同体になるため、自然になる。(27)は未来の状況に対する確信の「タ」であるが、(27b)を(28)のように変えることにより、許容度が上がるようである。

(28) (相手が弱いチームであることが分かったチームメートが言う)

明日の試合は我々が勝った。

このように、人称制限は「しておく」だけの問題ではない。いわゆるムードの「タ」や授受表現など日本語全般において何らかの影響を及ぼしているかのようにも思われる。人称制限が日本語と韓国語のアスペクト形式の相違をもたらす一つの原因になっていることは否めないだろう。

4.3. 着・脱表現

日本語は着・脱を問わず、「しておく」が用いられるが、韓国語は着・脱の間に「hae nohda」と「hae duda」の許容度の差が若干あると思われる。(29)(30)は着用動詞文、(31)は取り外し動詞文であるが、着用動詞の「(スーツを)ibda(=着る)」「(マスクを)ssuda(=つける)」は「hae duda」に比べて「hae nohda」の許容度がやや落ちるよう

ある*10。

- (29) a.出勤時間に間に合わせるために、食事前に前もってスーツを着ておいた。
b.출근시간에 맞추기 위해, 식사전에 미리 양복을 입어 {?놓았다/두었다}.
(chulgeunsigane majchugi wihae, sigsajeone mili yangbogeul ibeo {?nohassda/dueos-
da}.)
- (30) a.実験室に入る前に前もってマスクをつけておいた。
b.실험실에 들어가기 전에 미리 마스크를 써 {?놓았다/두었다}.
(silheomsile deuleogagi jeone mili maseukeuleul sseo {?nohassda/dueos-
sda}.)
- (31) a.太郎はプールに入るため、すでにメガネを外しておいた。
b.타로오는 수영장에 들어가기 위해, 미리 안경을 벗어 {놓았다/두었다}.
(TALONuen suyeongjange deuleogagi wihae, mili angyeongeul beoseo {nohassda/
dueos-
sda}.)

先にも述べたように、「しておく」は3人称主語を取ることができないことから、動作主は話者自身になるだろう。「しておく」は着・脱を問わず、一定の文脈が整えば可能であると考えられる。それに対し、「hae nohda」は人称制限は働かないが、着用動詞文においては許容度がやや落ちるようである。しかし、(31)のような取り外し動詞文の場合は「hae nohda」と「hae duda」がともに可能である。

一方、着用動詞文であっても使役の意味を含む表現においては「hae nohda」と「hae duda」がいずれも自然になる。

- (32) a.子供がいつでも寝られるように前もってパジャマを着せておいた。
b.아이가 언제라도 잠자리에 들 수 있도록 잠옷을 미리 입혀 {놓았다/두었다}.
(aiga eonjelado jamjalie deul su issdolog jamoseul mili ibhyeo {nohassda/dueos-
sda}.)

*10 これに関連して、李기동 1979 (p.74)は「ibda(服を着る)」「ssuda(帽子をかぶる)」などは、行為者の身から離れていたものを身につけるという意味であり、行為者が持っていたものを行為者から手放すという「nohda」の意味に反するから不自然になると指摘している。しかし、話者によっては「hae nohda」と「hae duda」の差はあまり感じられないインフォーマントもいることから、さらなる検討が必要であろう。

- (33) a. バイクに乗せるため、前もって子供にヘルメットをかぶせておいた。
 b. 오토바이에 태우기 위해, 미리 아이에게 헬멧을 씌워 {놓았다/두었다}.
 (otobaie taeugi wihae, mili aiege helmeseul ssuiwo {nohassda/duessda}.)

さらに、前節でも述べたように、非意図性の「hae nohda」は(34)のようにある行為の結果に対し、不満や非難を言い出す表現として用いられることがあるが、「hae duda」はこのような表現にはなじまない。このことは再帰表現でも同様である。

- (34) a. 不動産政策の失敗が周辺の土地の価格を(上げた/??上げておいた)。
 b. 부동산 정책의 실패가 주변 토지 가격을 올려 {놓았다/??두었다}.
 (budongsan jeongchaegui silpaega jubyeon toji gagyegoeul ollyeo {nohassda/duessda}.)

- (35) a. 君は何で息子にこんな服を(着せたの/??着せておいたの)?
 b. 너는 왜 애한테 이런 옷을 입혀 {놓았니/??두었니}?
 (neoneun wae aehante ileon oseul ibhyeo {nohassni/??dueossni}?)

- (36) a. (美容室に行ってきて鏡を見ながら)髪をおかしく{切られたな/??切られておいたな}。
 b. (미용실에 다녀온 뒤 거울을 보면서)머리를 이상하게 잘라 {놓았네/??두었네}.
 (miyongsile danyoon dwi geouleul bomyeonseo) meolileul isanghage jalla {nohassne/??dueossne}.)

日本語の「しておく」は基本的に話者が何かを備えるための行為でないと用いられにくいから、基本形で言い表すしかないと考えられる。このように考えていくと、韓国語の「hae nohda」と「hae duda」を訳すとき、「しておく」が対応できないことも説明することができる。

4.4. 他の形式との関連

先にも述べたように、「しておく」は1人称主語(あるいは話者)の行為ではないと用いられにくいようであるが、韓国語の「hae nohda」と「hae duda」は人称を問わず、用いられる点において日本語とかなり異なっている。(37)を見られたい。

- (37) (学校から帰ってくると、部屋がきれいに掃除してあるのを見つける。たぶんお客さんが来るから、お母さんが掃除したと考えて) (= (2))
- a. お母さんが部屋を掃除して{くれたんだ/?おいたんだ}。
b. 엄마가 방을 청소해 {놓았구나/두었구나}.
(eommaga bangeul cheongsohae {nohassguna/duecossguna}.)

日本語は2・3人称主語(行為者)が行為を行ったときには「しておく」ではなく、「してくれる」か「しておいてくれる」にしなければならないようである。山本 2005 も同様の指摘をしている。日本語は行為者が1人称主語(話者)か2・3人称主語かによって「してあげる」「してくれる」の使い分けがあるのは周知の事実であるが、このような視点の問題に関して、日本語のほうが韓国語より敏感であると思われる。

また、日本語の「しておく」は1人称に限られるものであることから、韓国語の「hae nohda」「hae duda」が用いられる文脈において用いられないこともある。その時、日本語は「している」形になることもあるようである。

- (38) (受験勉強をしている田中が心配事を言うと) (= (25))
- a. 君は試験勉強を十分して{いるから/?おいたから}、心配しないでよ。
b. 너는 시험공부를 충분히 해 {놓았으니까/두었으니까}, 걱정하지마.
(neoneun siheomgongbuleul chungbunhi hae {nohasseunikka/dueosseunikka}, geog jeonghajima.)

(38)は2人称の行為であるため、「しておく」は用いられにくい。さらに、話者(1人称)が恩恵を受けるような表現でもないことから「してくれる」も用いられにくい。この場合、日本語は人称に関してニュートラルである「している」が用いられる。

このように、「しておく」と「hae nohda」「hae duda」の間には、視点の問題も絡んでおり、必ずしも1対1の対応関係を成しているとは考えられない。アスペクト形式の場合、韓国語より日本語のほうが視点に敏感であり、「しておく」は視点の制約が働くという点で授受表現とも関わっていることが分かる。

さらに、非意図的な「hae nohda」に対し、意図的な「しておく」が対応しにくい

め、「してしまう」に訳されることもある*11。

(39) (太郎に車を貸してあげたが、次の日、運転するとき、エンジンの故障に気づく。これはたぶん太郎の運転ミスから生じただろうと思いつながら)(=(17))

a. 太郎が車を故障させて{??おいた/しまった}。

b. 타로오가 차를 고장내 {놓았다/??두었다}.

(TALOOga chaleul gojangnae {nohassda/??dueossda}.)

(40) (1歳の弟の次郎が太郎の部屋で遊んでいた。幼稚園から帰ってきた太郎が自分の部屋が散らかされているのに気づく。これは次郎がしでかしたと思いつながら) (= (18))

a. 次郎が僕の部屋を散らかして{??おいた/しまった}。

b. 지로오가 내 방을 어지럽혀 {놓았다/??두었다}.

(JILOOga nae bangeul eojileobhyeo {nohassda/??dueossda}.)

5. まとめ

以上、日本語の「しておく」と韓国語の「hae nohda」「hae duda」との関係について、過去形を中心に述べてきた。簡単にまとめると、次のようになる。

- a. この3形式はそれぞれ本動詞「置く」「nohda」「duda」の意味をまだ保持している点において共通している。
- b. 韓国語の「hae nohda」は非意図的な用法を持ち、人の行為でないような状況でも用いられる。また、「hae nohda」は複合動詞として用いられることがあるが、「しておく」「hae duda」は複合動詞化は見られない。
- c. 「しておく」には人称制限が働き、主として1人称主語をとるが、「hae nohda」「hae duda」には人称制限は働かない。そのため、韓国語の「hae nohda」「hae duda」を日本語で訳すと、「しておく」には訳されず、文脈により、基本形や「してくれる」「している」「してしまう」などに訳さなければならないこともある。

*11 李美淑 1999 は日・韓翻訳本を通して「hae nohda」「hae duda」が「しておく」のほか、「している」「してくれる」「してしまう」などに訳されていると指摘している。しかし、李はその数を示しているだけで、その理由については触れていない。

このことは、「しておく」のほうが「hae nohda」「hae duda」より視点に敏感であることを示唆していると考えられる。

このように、「しておく」と「hae nohda」「hae duda」は似たような意味を有しているながらも、詳細は違っているようである。この3形式のうち、動詞とのくっつきの度合いが高いのは「hae nohda」であり、その分「しておく」と「hae duda」より文法化が進んでいるとも言えそうである。

参考文献

- 李美淑2001「日本語の補助動詞-「～しておく」の場合-」『国文学解釈と鑑賞』7月号 至文堂
- 大場美穂子1996「「～である」について」『東京大学言語学論集』15
- 笠松郁子1993「「しておく」を述語にする文」『ことばの科学』5 むぎ書房
- 金水 敏2000「時の表現」『時・否定と取り立て』岩波書店
- 黄 麗雪1994「「～シテアル」と「～シテオク」についての考察」『日本語学論集』第4号 東北大学文学部
- 杉村 泰1996a「テアル構文の意味分析-その「意図性」の観点から-」『人文科学研究』25 名古屋大学大学院文学研究科
- 杉村 泰1996b「形式と意味の研究-テアル構文の2類型-」『日本語教育』91
- 高橋太郎1969「すがたともくろみ」(『日本語動詞のアスペクト』1976に再録)
- 谷口秀治2000「「～しておく」に関する-考察-終結性を持つ用法を中心に-」『日本語教育』104
- 原沢伊都夫1998「テアル形の意味-テイル形との関係において-」『日本語教育』98
- 原沢伊都夫2005「テアルの意味分析-意図性の観点から-」『日本語文法』5巻1号
- 益岡隆志1987『命題の文法』くろしお出版
- 益岡隆志1992「日本語の補助動詞構文-構文の意味の研究に向けて-」『文化言語学 その提言と建設』三省堂
- 益岡隆志2000『日本語文法の諸相』くろしお出版
- 山崎 恵1996「「～しておく」と「～してある」の相関をめぐって-言い換え可能な場合の条件-」『富山国際大学紀要』VOL.6

山本裕子2005「～しておく」の意味機能について『名古屋女子大学紀要』51(人・社編)

油谷辛利1979「-어 놓다」と「-어 두다」の意味分析『朝鮮學報』91 朝鮮学会

吉川武時1973「現代日本語動詞のアスペクトの研究」(『日本語動詞のアスペクト』1976に再録)

金聲和2002『國語의 相 研究』한신문화사

朴(박)선옥2005『국어 보조동사의 통사와 의미 연구』도서출판역락

孫(손)세모들1996『국어 보조용언 연구』한국문화사

李(이)기동1979「조동사 ‘놓다’의 의미연구」『한글』163 한글학회

李美淑1999「韓國語의 「～어놓다」「～어두다」와 日本語의 「～しておく」對照研究」『日語日文學研究』35 韓國日語日文學會

ホ ジェソク／人文社会科学研究科
(2007年10月30日 受理)